

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301893		
法人名	株式会社あいの里		
事業所名	グループホーム あいの里 吉		
所在地	福島県郡山市片平町字新蟻塚80-1		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方にとってここが住みやすい場所だったり、落ち着く場所、安心できる場所になれるように、入居者の方を中心とした生活を考えている。まるで家にいるかのような過ごしやすさを感じて頂ける様に目指している。一人ひとりが、「働いている」「生きている」力を最大限に活かせる生活、五感を感じて頂ける生活、四季を感じられる生活、一人ひとりの感情が表現できる生活を目指して、日々取り組んでいる。また、かかりつけ医、認知症専門医、訪問看護師と連携を図り、その方が最後まで自分らしく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所では日常的に買い物や散歩等の外出支援をしている。また、事業所行事が地域において行事化するほど多くの参加者が集まる敬老会を実施したり、傾聴ボランティアの受け入れなど地域との連携交流に積極的に取り組んでいる。
2. 利用者の興味や能力を活かし、日常生活の楽しみや安定が得られるよう利用者本位に立った具体的な介護計画を作成している。
3. 職員の資格取得のため事業所独自で勉強会や模擬テストを実施し、資格取得に対する支援をするなど積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者全員の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 壱

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	言葉の意味を考え実践出来る様、日々努めている。基本理念に添って職員同士共有し、日々のケアを行っている。	理念を掲示し、会議で唱和したり職員勤務表に理念を掲げ、ユニットごとに、理念に沿った実践目標を掲げ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事で地域の人に参加出来るものに参加して頂き、交流を図っている。隣の家の方や近所の住民の方々など挨拶をしている。	事業所近隣の散歩や買い物に出かけたり、傾聴や清掃のボランティア等を受け入れたり、各種事業所行事に地域住民を招くなどして交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々に来所して頂き、交流をしている。近くの商店に入居者さまと買い物や散歩に出掛けた時に挨拶している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、定期開催をしている。社長や職員、民生委員・ボランティア・地域包括センターや入居者さまのご家族さまに参加して頂き行っている。夏の開催時には昼食(流しソーメン)と一緒に食べて頂く予定。	運営推進会議は定期的開催し、利用者状況、職員の異動、外部評価、行事、防災訓練、研修、事故などの報告を行い、委員の率直な意見をもらい運営に活かしている。	運営推進会議の結果や家族アンケート結果などは掲示するなどして、来所者、職員が閲覧できるようにして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度、市の介護サービス相談員が来所され入居者さまとの話し合いをする時間を持たれている。	関係法規の指導を受けたり、事故などの報告、毎月来所する介護相談員が把握した情報を協議するなど関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者さま一人一人にあった関りをしている。自由に外への出入りが出来る。その際、職員は無理には引き止めず、ある程度の距離を保ち様子を伺っている。尚、夜間帯(22時～翌朝7時)は職員が一人で見守りを行うため、施錠している。	身体拘束排除マニュアルを整備し、研修を行い玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族と早い時期からリスクについて話し合い情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などの中で資料を見ながらの勉強会を行っている。生活の中で傷や内出血が出来てしまった時など職員内で情報を共有したり、どうして出来てしまったかを考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者さまの中で成年後見制度を利用している。分からない事などは管理者に相談し指示を受け、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必要な説明を管理者・主任が契約書を見て頂きながら行っている。契約に対し、変更点がある時は御家族様にお話し、了承・または再契約をしている。尚、締結も速やかに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの要望や意見は大切にしている。	ケアの場面や家族面会時などに、利用者や家族の意見などを把握し、それらを職員間で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議・ユニット会議を行っている。	各種会議や職員との個別面談を定期的に実施し、意見や提案を取り入れ、運営に反映させている。また、資格取得のための勉強会や模擬テスト、資格取得のための経費補助を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に、管理者・主任・各職員の3人で良かった事・反省・来年度についての目標などを話し合っている。その際、会社への要望を聴き代表に話しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修や、管理者・主任が学んで来て欲しい研修などに参加している。又、研修後は会議などで報告会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、同業者との交流をしている。年に一度、別事業者に2日間研修に出掛け体験をして来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時に、入居者さま・御家族さまから情報を収集し入居者さまの思いや要望を踏まえ、コミュニケーションを図り良い関係作りをしている。入居されて間もない入居者さまには不安が解消出来る様に側に寄り添い、傾聴をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族さまが来所した際に近況をお話する事で、情報の共有に努め信頼関係が作れる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族さまが納得できる様なケアを考え、職員全員で話し合い必要としている支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまと職員は一緒に家事などをする事でお互いを支え信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られて時は、入居者さま・御家族さまとの時間を大切にしている。 日々の生活の報告や行事への参加案内を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅やご本人が大切にしている場所へ訪れる事で、ご近所の方や馴染みのある方と会話して頂けるよう支援を行い関係を絶やさないうよう努めている。	馴染みの理髪店、美容院、レストラン、商店へ買い物に出かけたり、知人の面会、家族との墓参りなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さまにも相性があるので席の配置に気を付けている。食事の時など入居者さま同士で会話をしている姿も見られている。何事にも一緒に行える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御家族さまからの相談があれば、話し合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いや願いをその人その人で話しやすい環境を整えチームで共有できるよう工夫して支援出来るよう努めている。また、会話などが困難である方に対しては御家族等からご本人の想いを教えて頂くよう努めている。	職員は日常の会話から利用者の思いや希望を聴取し、そのことを家族とも協議し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の営みは各スタッフが情報として確認出来る様、各個人別ファイリングし共有出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で、体調管理・食事量・排便があるかなどのチェックは忘れずに行っている。一日を通し、楽しく・笑顔で過ごして頂く様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、入居者さまの担当スタッフがを行い、ケアプラン作成はモニタリングを元に計画作成担当が行っている。実施出来ているかは、ケース記録の中で評価している。	担当職員がモニタリングを行い、家族、医師等の意見や本人の生活歴、興味関心、能力も踏まえ出来る限り本人が楽しく活動的な生活ができるよう介護計画を作成している。また、定期的な見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活をケース記録に記載している。一日2回の申し送りの中で情報の共有をしている。又、出勤時には必ずケース記録を見る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さま・ご家族さまの要望は叶えられるようにスタッフ同士で話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外出などで本人の能力を発揮出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に主治医とは連絡・相談が出来る体制になっている。	本人、家族が希望する医療機関での受診を基本としているが、大半が事業所の協力医を希望している。通院支援は家族との関係が疎遠にならないよう、できる限り家族に協力して頂いている。また、受診結果は電子掲示板や電話等を活用し共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護職員はいない。その為、訪問看護と全ての入居者さまが契約し、毎週木曜日に来所し入居者さまの健康チェックなどを行っている。急変が合った際は訪問看護に連絡をし、指示を仰いでいる。24時間、連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はほぼ毎日面会に行き、病院の方から状況を伺い把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族さま・主治医との話し合いで今後の方針を決めている。又、スタッフは自分に悔いが残らない様にケアに努める努力をしている。	利用開始時、利用者及び家族に対して、重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して同意を頂いている。看取りの実施にあたっては、家族や主治医等と話し合っ方針を決め、家族の意向に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防職員の立ち合い・指導の元救命講習(AEDの使い方)を行っている。又、スタッフのは普通救命の講習を義務づけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回(内、2回は消防署立会・2回は自主訓練)を定期的に入居者さまと共に行っている。	年間計画で、火災や地震等を想定した、防災訓練やAED機器の操作講習を、消防署の協力を得て定期的実施され、地域住民との連携も図られている。また、毛布や懐中電灯等の防災グッズや、乾パンや飲料水等の非常食も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さまのプライバシーに関する事は外部に漏らさない様にしている。入居者さま一人ひとりに合った声掛け・話しかたを行い、「ダメ」「待って」等の言葉は使わない様にしている。	法人経営者や統括責任者は、会議の中で利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねない話し掛けや、禁句集を使い言葉遣い等について注意喚起している。また、個人情報等を外部に漏らさないよう、取扱には十分な注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さまの思いを理解し、自己決定出来る様に声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さまのペースで過ごして頂く様にしているが、「一日中、休んでいたい」と言う入居者さまに対し思いを尊重したいが身体機能の衰えを考えると悩んだ時があった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者さま合った服装や外出時にオシャレが出来る様にしている。着替えを行うときも入居者さまが選べる様に工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	買い物から、メニューを考える事を入居者さまと行っている。スタッフと一緒に買い物に出掛け、品物を選んで頂き食事作りまで行っている。	献立立案から食材の購入、簡単な野菜の下処理等、食事に関連した一連の作業を、利用者と一緒にしている。特に、夕食は毎回利用者の希望を聞いて、献立に反映させている。また、農園で採れた野菜を使う等、旬の食材を採り入れるようにしたり、外食や手作り弁当やおにぎりを持って外出する等の取組もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事量・水分量が確保出来る様に支援している。定時にだけでなく、入居者さまの希望に添える様、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には行えていないが、就寝時にはスタッフの声掛け・もしくはスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の入居者さまに対しては、定時のトイレ誘導。その他の入居者さまに排泄サインを見逃さない様にしている。又、リハビリパンツやパットを使用している入居者さまに対してはパットの当て方なども考え、使用量の減に気を付けている	利用者の状態に合わせて、定期的に誘導したり、本人の排泄サインや習慣を把握し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。また、さりげない声掛けでのトイレ誘導に心掛け、羞恥心への配慮した支援をしている。併せて、排泄用品の少量化に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や牛乳を多く飲んで頂いたり、腹部にマッサージを行ったりしている。あまりにも排便が無い時は訪問看護師に相談している。極力、薬には頼らない様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	何時でも入れる環境は作ってある。声掛けをし入浴を頂いている。しかし、入浴される時間帯は決まっている様に見える。	夜間入浴等、何時でも入浴ができる体制が取られており、利用者それぞれの体調に合わせて、週2回から4回の入浴支援が行われている。また、羞恥心への配慮がなされ、入浴を拒否される方には、言葉掛けや気の合う職員に代える等の支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さまの体力に応じて休憩時間を取って頂いている。夜間は気持ちよく安心して休んで頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変化が有るかを処方箋を見て確認している。又、処方が変わった時は様子観察を行い、変化が見られた時は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で入居者さまに合った、出来そうな事をスタッフと一緒にしている。又、天気の良い日にはドライブに出掛けたりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度、御家族さまにも声を掛け大型バスを借り普段は出掛けられない場所に出掛け楽しんで頂く日を作っている。	日常的に事業所周辺の散歩をしたり、食材を買いに出掛けたり、ドライブを兼ね公園や名所地に出掛けている。また、家族の協力も頂きながら、歌謡コンサート鑑賞等の外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者さまが管理出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話が出来る様にしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活出来る様考えて配置をしている。又、色々な行事を大切にしておりその時期に合った掲示をしたり、母の日・父の日には手作りのプレゼントを行っている。	食堂や廊下等の共用空間は、空調管理がされており、各所に生け花や観葉植物が置かれている。また、壁面には絵画等が掲示され、穏やかに生活ができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・廊下・中庭などにベンチを置き、過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居者さまの馴染みの物、使い慣れた物を持参して頂き、過ごし易い空間を作っている。	テレビやタンス、飾りボードや家族写真等、多くの馴染みの物を持ち込まれ、自分の作品を飾る等して、その人らしく暮らせる環境作りに努めており、生活感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さまのやれる事の支援をし、出来なくなったしまった事・スタッフと行えは出来る事を一緒にしている。又、スタッフは一緒に行う事で出来なくなってしまった事の把握をしている。		